

七ヶ宿 火まつり

護摩木・五色矢事前販売



- 内容 採燈大護摩供・花火大会
- 日時 令和6年8月24日(土)
開始18時30分から
- 場所 七ヶ宿ダム自然休養公園



★護摩供は燃え上がった炎の中に願いを込めた護摩木を投じて煩惱を焼き払う祈願です。護摩供の時に使う、願いを書き炎に投じる「護摩木」と家の中に置くと諸々の魔障が取り除かれるといわれている「五色矢」を下記のお店で事前販売します。心の願いを祈願してみませんか。

護摩木 1本 200円

- 【湯原地区】 (有)クリキク七ヶ宿湯原SS
- 【滑津地区】 佐藤徳一商店
- 【関地区】 Book&Cafeこ・らっしえ
道の駅七ヶ宿
七ヶ宿町観光協会
- 【横川地区】 高善商店

五色矢 1本 1,000円

- 【関地区】 七ヶ宿町観光協会

※「護摩木」及び「五色矢」は当日会場本部でも販売します。(護摩木1本300円、五色矢1本1,000円)

※各店舗での事前販売の取扱いは、8月21日までです。道の駅七ヶ宿・七ヶ宿町観光協会では8月23日まで事前販売いたします。

※当日前夜祭にお越しになれない方は、8月21日まで「願いを記入した護摩木」を購入したお店にお届けください。事務局でお預かりし、当日会場でお焚き上げを行います。

護摩木販売に関するお問い合わせは各店舗または七ヶ宿町観光協会までご連絡ください。

● わらじで歩こう七ヶ宿実行委員会(七ヶ宿町観光協会) ☎ 37-2177

シルバー人材センター わらじ作り Focus!

七ヶ宿町の夏イベント「わらじで歩こう七ヶ宿」。このイベントは江戸時代の参勤交代路として栄えた七ヶ宿街道約11kmを道中のおもてなしや景観を楽しみながらわらじを履いて歩くイベントです。現在では珍しくなったわらじ作りについて紹介します。



▲熟練の技でわらじを製作しています



▲①わらじの基礎となる縄ない

わらじの起源は？

奈良時代に中国から藁の履物が伝わり、平安時代に爪先で鼻緒を挟むよう改良されて誕生したのが草鞋(わらじ)で、昭和10年代までは日常的に使用されていました。よく似た草履(ぞうり)との違いについて、わらじには足首を縛る紐があり、脱げにくくなっています。また、草鞋の特徴としてグリップが利くので沢登りなど水中の苔の付着した岩を歩く際にも使用されました。

▼②足掛けにわらじをセッティング!

▼③藁を編んでいきます



職人たちの手でわらじを製作中!

「第36回わらじで歩こう七ヶ宿」で使用されるわらじはシルバー人材センターの方々によって製作されています。機械化が進んでいる世の中ですが、手作業で丁寧に製作し、何一つ同じものが出来ないわらじ。今日よりも明日上手に作ることを目標に、昨日よりも上手に製作できたときの達成感がわらじ作りの魅力だと語る職人の皆様。一緒にわらじ作りをしてみたい方は七ヶ宿町シルバー人材センターまでお問い合わせください。(☎ 37-2231)

また、右記QRコードからわらじ作りについての動画をご覧ください。

七ヶ宿公式YouTubeチャンネル「Japanese tradition 伝統を守るヒーロー」▶

